

ぽんさんぽ

悩んで、歩いて、考えて

みなみななみ

ふれあいの庭で2

VOL.29



ひきつづき横浜の
瀬谷キリスト教会の柏木さんから
これまで行っていた
被災地支援の
お話を伺う

仮設に
お片付けする
ため…

瀬谷キリスト教会
高齢者ケア
NPO法人「せやふれあいの庭」



那須高原ハウスオブレストに
移動し キッチンを借りて
早朝五時から
お弁当を作ります



え なぜ
那須まで？



こちらが営業許可を取っている
ペンションだからです
衛生管理がきちんとされて
いて安心です そして



ここで調理した器材の一部は
万が一、食中毒が起こったときの
ことを考え「検食」として
七十二時間冷蔵し
保存しておいて
もらっています



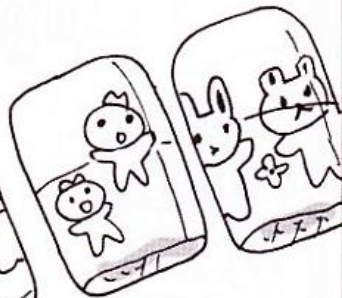
ひよー
そういう配慮も
必要なんですね



那須高原教会の
近藤牧師ご夫妻は
力強い協力者です



ふたたび
移動して
南二丁目仮設へ
お弁当を配布
包み紙には
教会の方々と
子どもたちが
毎回絵を描く



かわいいね
記念に持ち帰るわ

皆でわいわい
ガヤガヤ楽しく
お弁当の時間



川内村は東電からの
月々の援助が無くなり
厳しい経済状況に
置かれていました

弁当一食でも
その一食分が
助けることになります



特定非営利活動法人せやふれあいの庭 / 「体を使い、頭を使い、歌を歌い、共に食し、共に笑う」をコンセプトに、高齢の方々、障がいをもった方々、被災地域におられる高齢の方々とその家族など、さまざまな支援を必要とする方々が仲間と共に、体も心も充実した日々の生活が歩めるような活動や、交流の場、きっかけを提供している。 <http://seya-fureai.jp/>

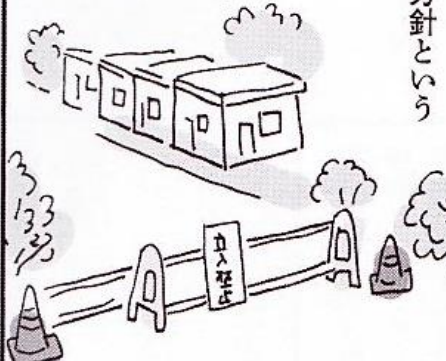
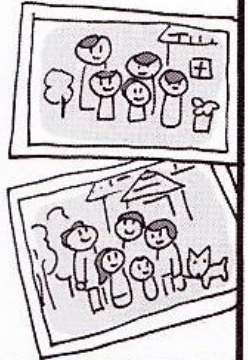
震災前は三世代で
にぎやかに
暮らしていたのに
家族と離れるしか
なくなった
ご高齢の方々

仮設で暮らし始め
仮設の仲間と出会い
支え合い
励まし合ってきた
けれども

川内村住民帰還方針という
政府の政策が
打ち出され

三月末日をもって
仮設は閉鎖
六年間
慣れ親しんだ
仲間と別れ

川内村へ帰って
家族と住む方や
郡山市内に残って
暮らす方もいます



放射線の被曝が
少ないとはいえ
その放射線を毎年浴びる
そしてそれが
体の中に
溜まっていく…
そのような地域に
帰ることを
躊躇する人も
たくさんいて

若い人や
生活に必要な
店も少なく
大きな病院も遠く
村に帰っても生活が
成り立って
いかないという
心配もあります

この仮設に
住んでおられた方々には
厳しい現実があります

他に行く所がないから
しょうがない

帰っても
ひとりぼっちだ

もう
あきらめた



今年二月
仮設最後の
集会が終わり

お茶を飲みながら
長いおしゃべり
あんたたちは
来てくれるよね

また来てね
必ず
待っているから

ありがとう

またきこやー
ありがとー
私たちが帰るまで
高齢者の方々は
集会場で待っていてくださり
丁寧にございました



自治会長さんからは
川内村にできた
ホームなどにも
続けて
来てください



昨年
川内村へ行って
新しく建てられた
特別養護老人ホームでも
音楽療法を
初めて行いました



仮設が
閉鎖された後も
川内村支援は
続けていくよう
導かれています



神様が
せやふれあいの庭を
川内村仮設に
導かれました
神様がどんなにか
この人々を
愛しているか
その証しであると
感じました



そしてこの現実を
目の当たりに
見させられている
私たちは
彼らの生活が
守られていくように
それと共に
神の愛と救いが
この働きを通して
流れて
彼らの心に届くようにと
祈らずにはいられません




柏木さんのお話を
うかがいながら



六年前の
震災直後 私も
ボランティアを
少しだけやったことを
思い出した
何をしたかも
忘れつつあったけれど



震災のため
困難な毎日を送
らなければならない
方も
仮設がなくなっても
現実は
大変さが続いていて
……
さらに大変で



そしてその方々を
誰よりも愛し
心にかけておられる
神様が
私
も
祈らせていただくこと
改めて思った

